

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502546-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の平均年齢が88.8歳と高齢であり、生活の延長線上に最期の時があることを意識しながらその方にとっての普通の生活を当たり前で過ごすことが出来るよう心掛けています。昨年では2名の方を看取らせていただいたがコロナ禍ではあったがご家族様にも満足していただける最期であった。職員もしっかりと介護をすることが出来たことはそれぞれの自信にもつながる経験であった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム虹の家白石」は、近くに公園やコンビニエンスストアなどがある静かな住宅地に立地している2階建て1ユニットの事業所である。天窓から明るい光が注ぐ居間や食堂は開放感のある造りで、利用者が好きな場所でゆっくり寛げるようにソファや椅子の配置を工夫している。居間や廊下の壁には季節感のある装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。運営推進会議は、感染症流行の中でも地域包括支援センター職員と町内会役員の参加を得て開催し、特殊詐欺などに関する役立つ情報をもらっている。管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの尊厳と人格を尊重し、その人のペースに合わせた支援を行っている。食事は、本人の食欲を重視してそれぞれの生活リズムに合わせて時間帯で食べやすい物を提供している。排泄面では、各利用者の感覚を大切にしながら訴えや仕草から把握してトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。管理者は、職員の資質向上を目指して新たに「アクションプランシート」を取り入れるなど、職員教育にも積極的に取り組んでいる。ケアマネジメントでは、基本情報の他、センター方式シート(心身の情報)を作成して本人の思いや意向、暮らし方の希望を把握し、最後までその人らしい生活が送れるように全職員で優しく寄り添ったケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲げ、朝、夕の申し送り前に唱和している。	「虹の家理念」と地域密着型サービスの意義を踏まえた「ケア理念」を作成し、事業所内の要所に掲示している。朝夕の申し送りは、主に「虹の家理念」を唱和している。夕方の唱和は、職員自身が一日のケアの振り返りを行う機会になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から挨拶を交わしたり、ごみ集積場の掃除や雪かきを行っている。	感染症の流行により、散歩の時に近所の方々と会釈を交わす程度である。管理者は、地域住民や待機者から電話で介護相談を受けている。感染症収束後は、ボランティアの受け入れや町内会行事への参加を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が包括や個人の介護相談を電話で受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であったが感染症対策をしっかり行い2か月ごとに1回会議を開催していた。短時間での開催だったのでホームからの状況報告と委員から意見を聞くのみであった。	感染症流行時も、地域包括支援センター職員と町内会役員の参加を得て、事業所報告を中心に会議を行っている。地域包括支援センター職員から特殊詐欺の情報提供を受けている。情報内容に応じて、議事録と一緒に家族にも資料を送っている。	テーマを記載した案内を送付して参加できない家族の質問や意見を事前に聞き取り、会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本部で市役所担当者と連絡を取り事業所に伝えてくれている。	市役所とのやり取りは本部が行っている。管理者は、介護保険の更新やタクシー券の手続きなどで区役所を訪れて担当者や情報交換している。区役所の保健師と連絡を取ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	WEB研修により職員全員が身体拘束について学び自己の振り返りを行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを整備している。勉強会はWebで実施して各職員が「ふりかえりシート」を作成しているが、研修資料の整備が十分とはいえない。2か月ごとに開催している身体拘束ゼロ推進委員会の議事録は、不足している部分も見受けられる。玄関の鍵は日中も施錠しているが、閉塞感を感じないように職員が柔軟に対応している。	勉強会の実施記録と資料を分かりやすく整備するよう期待したい。また、身体拘束ゼロ推進委員会の議事録の検討内容などを具体的に記入するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	WEB研修により職員全員、研修を受けた。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方に後見人が付いていて、そのうち1名の方は市民後見人が付いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安、疑問、理解しかねていることがあれば何度でも説明させていただき、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ブログをこまめに更新し、意見も書き込めるようにしている。	来訪時や電話で利用者の様子を伝え、意見や要望があれば個人記録に記入している。家族に介護計画を送る時、管理者が個別の手紙を添えている。毎月「虹の家便り」を作成し、写真で様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総務部長が現場へ赴き、職員の意見等を聞いている。	感染症の流行により会議は少なくなったが、管理者が日常的に職員の意見や提案を聞き取り、業務や環境整備などに反映させている。アクションプランシートに各職員が目標を掲げ、全職員で把握しながら達成できるように取り組んでいる。個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れ、アクションプランシート等も使い個々が目標を持ちそれが達成できるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体介護の方法について職員同士で話し合い、方法の検討をするなど仕事の中で行っている。また、WEB研修を受けたりもしていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他グループホームの管理者と連絡を取り、情報交換していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っていることに耳を傾け安心の確保につなげている。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から関係づくりに努め、入居に対しての不安や、入居後の要望についてもよく話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームでできること、他のサービス利用が望ましいのかを説明し理解を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を共に行い楽しい時間が共有できるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限はあったが状況を見て玄関先で短時間会うことが出来るようにしたり、日々の記録のコピーを送ったりメールをしたりして情報を共有していた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出支援はできず、外からの人も来れない状況だった。	感染症の流行や利用者の高齢化により、知人や友人など馴染みの人との交流は、ほとんど無くなっている。近くの公園に花見や紅葉見学に出かけている。感染症収束後は、家族や職員と馴染みの場所に出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や季節の飾り物づくり、行事など楽しみを共有し、利用者様同士話が弾む関係づくりに努めていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方の葬儀に参列させて頂いたり、一周忌や三回忌に供物を送ったりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	会話や仕草、行動などから思いや意向を把握し、センター方式シート(心身の情報)に記入している。変化があった時や介護計画の見直し時に、心身の情報シートに追記したり書類を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活歴等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は記録したり、お互いに情報交換したりと徐クイン全員が利用者様一人一人、どのように過ごされているか把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時や普段から意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	計画作成担当者が全職員の意見を聞き取って評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成して家族に説明している。介護計画の「具体的計画内容」に記号を付け、今後は24時間シートに変化を記入していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々の声掛けを個人記録に書き、情報を共有し介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆さん重度化しているため、個々に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の中に市民後見人が付いている方がいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、週1回の訪問看護によって健康管理がされているほか、体調に変化があったときには、その都度主治医に報告し支持を頂き、必要があれば他医療機関を受診している。	協力医療機関の定期的な訪問診療の他、歯科の往診体制も整えている。専門医を受診する時は、利用者の状況に応じて事業所職員が同行することも。受診状況は個別に記録している。	

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の時に一週間の様子を話し、必要に応じて対処法など適切に対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をして頂き、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院が出来るように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、それに基づいて支援に取り組んでいる。昨年2名の方を看取った。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所の方針と看取り対応について説明している。利用者の状況を見ながら、本人と家族の看取りに関する意向を確認している。主治医の判断の下、希望に沿って可能な限り看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成をし、活かせるようにしているところがある。	年2回、昼夜の火災や水害を想定した自主訓練を実施しているが、職員の採用状況により昼間想定訓練を多く行うこともある。町内会と連携し、近隣住民の参加を得て避難訓練が実施できるように検討している。	災害やケア別での個別対応を話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。感染症の収束状況に応じて、職員の救命講習の受講を計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには全職員が意識しながら行っている。素人記録も頭文字で記入している。	身体拘束等をWeb研修で学び、事例検討や振り返りシートで取り組み専門性を高めている。職員はわかりやすい言葉がけで利用者のペースを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択していただくなどの工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに沿えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったご本人が気に入っているものを着て頂けるようコミュニケーションをとりながら選んだり介助したりしている。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮しメニューを考えたり、器の工夫や食べやすさを考えるなどここに対応している。また、もやしのヒゲ取りなどを一緒に行っている。	食事は、利用者が自分のペースで食べたい時に食べることを実践して早朝から対応している。誕生会はケーキで祝い、行事食は人気のある寿司や赤飯などが好評である。準備や後片付けは利用者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望した時や、お手伝いの後などにコーヒー、ココア、抹茶ラテ、ミルクティやスポーツドリンク等提供している。また、栄養補助としてイラスやエンシュアリキッドを飲んでいる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に合わせてガーゼやスポンジを使用したり、本人の力に応じ声掛けにより介助も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パッド利用の方、車いすの方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせて声掛けトイレ誘導をさせて頂いている。	自分のペースで利用者がトイレでの排泄を継続できるように、排泄動作の自立や維持、介助など個別の支援を行っている。職員は排泄記録や表情などで状況を把握し、衛生用品や介助などの見直しや検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や腹部のマッサージをしたり、オリゴ糖を摂取して頂いたり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めているが、その日の体調や気分により変更できるようにしている。	浴室や脱衣場は広く、職員の介助や福祉用具を使い安全な入浴を実施している。利用者の入浴習慣や介助の方法などを把握して、楽しい会話や湯加減、飲み物など気分転換ができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。ベッドシーツは常に清潔で居室内の温度や湿度の調整をし、夜間も気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方も確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服薬変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や新聞たたみ、掃除手伝いなど出来ることを行って頂いたり、ラジオ体操などの体操や外気浴などを行っている。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので近所の散歩や外気浴を行っていた。	感染症予防に留意しながら、近隣の公園へ花見や紅葉狩りに出かけている。天気の良い日は、車椅子利用者も一緒に散歩して花壇や町内の様子を楽しんでいる。事業所前にベンチを置いて外気浴を楽しみ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人込みを避けるため買い物支援は行わなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい等の希望があれば対応できるようにしていた。希望はなかった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車いすの方も安心して過ごして頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファがありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	多くの窓や天窓から陽が入り明るい。食堂やリビング、台所では職員や利用者が集まり、季節感のある装飾や行事の写真を飾り、居心地よい場所となっている。階段や廊下には手すりを設置し、エレベーターも設備している。職員は感染症予防から、事業所内の温度や湿度、換気に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今のソファに座ったり、テーブル席に居たりご自分の好きな所に居て音楽やテレビを楽しんだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を使用したり、使い勝手の良い家具を購入したり、写真や自分の好きな物を飾ったりしている。	居室内は大きな窓があり明るい。馴染みの椅子やテレビ、使い慣れた寝具を持ち込み、壁には家族写真を飾っている。利用者や家族と相談して居心地よい部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用のエレベーターがあり下りた時にどこかわかるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。また、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋をわかるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家白石

作成日：令和 5年 2月 28日

市町村受理日：令和 5年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の勉強会の実施記録と資料がわかりやすく整備できていない。	議事録の記入の仕方の工夫、資料の整理をする。	ファイリングを見やすいように、わかりやすいようにする。	1か月
2	4	運営推進会議の家族の参加を文書だけでもやったほうが良い。	ご家族からテーマや質問などの聞き取りが出来るようにする。	お手紙などで、ご家族に質問、意見を伺い会議に反映させていく。	2年
3	35	個別対応についての話し合いを文書化し整理できていない。また、職員の救命講習が出来ていない。	資料の整理整頓をする。順次救命講習が受けられるようにする。	避難訓練後の話し合いの文書化及び資料の整理をする。救命講習再開後順次受講できるように計画する。	2年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。